

## 引用文献

Hayakawa, H. *et al.* 2013. Phylogenetic Background of a Glabrous Individual of *Spiranthes sinensis* var. *amoena* (Orchidaceae) Collected in Kochi Prefecture, Japan. *J. Phytogeo. Taxon.* 61, 45-50.

Iwata, T. *et al.* 2012. Inflorescence architecture affects pollinator behaviour and mating success in *Spiranthes sinensis* (Orchidaceae). *New Phytologist* 193, 196-203.

前川文夫 1971. 「原色日本のラン」. 495p. 誠文堂新光社, 東京.

大賀教平ら 2013. 高知県内におけるアキザキネジバナ (ラン科) の新報告. *高知県の植物* 23, 87-88.

里見信生 1982. ネジバナ属. 佐竹義輔ら(編) 「日本の野生植物 I」. p.216. 平凡社, 東京.

Suetsugu, K. and H. Hayakawa 2016. Phylogenetic background of the glabrous and early booming *Spiranthes sinensis* (Orchidaceae) collected in Kumamoto Prefecture, Japanese mainland, Japan. *J. Jap. Bot.* 91, 331-336.

Tsukaya, H. 1994. *Spiranthes sinensis* var. *amoena* in Japan contains two seasonally differentiated groups. *J. Plant*

*Res.* 107, 187-190.

Tsukaya, H. 2005. Molecular variation of *Spiranthes sinensis* (Orchidaceae) in Japan, with special reference to systematic treatment of seasonally differentiated groups and a dwarf form, f. *gracilis*, from Yakushima Island. *J. Plant Res.* 118, 13-18.

塚谷裕一 2001. 「蘭への招待—その不思議なかたちと生態」. 集英社, 東京.

塚谷裕一 2005. 日本国内におけるネジバナ (*Spiranthes sinensis* var. *australis*) の分子多型と種内変異. *Plant Morph.* 17, 31-34.

### 統計データから

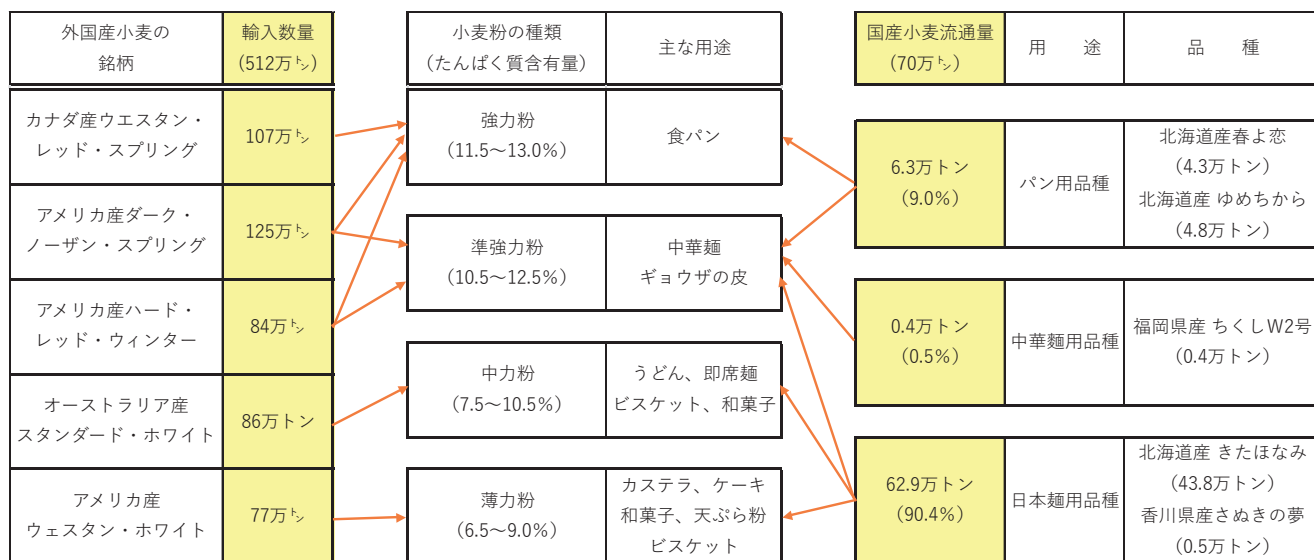
## 小麦の種類と用途別の外国産及び国内産小麦の流通量

小麦は、食料消費において国民1人に供給されるカロリーの13.7%を占めているが、カロリーベースの自給率は15%である(平成27年度)。外国産食糧用麦はアメリカ、カナダ、オーストラリアから輸入され、その量は近年450万～560万トン程度である。

国内産小麦の生産は、近年の作付面積は約21万haと横ばいで推移し、収穫量は年による単収の振れが大きく不安定で、

不作年の平成28年産は77.8万トンである。「食料・農業・農村基本計画」では、生産努力目標(平成37年度)95万トンが設定されている。

原料として使用される小麦は、たんぱく質の量によって強力粉、準強力粉、中力粉、薄力粉に分けられ、それぞれ用途が異なる。(K.O)



注1：輸入数量及び国内産流通量は、過去5年(H22~26年度)の平均収量

「麦をめぐる最近の動向」(農林水産省 平成29年3月)から引用

注2：輸入数量は5銘柄以外の33万トを含む